ChatGPT

Figure AI「AGIの萌芽」報道の技術・データ・法務・市場分析

Executive Summary

2026年11月8日付のForbes JAPAN／Yahoo!ニュース記事「人型ロボのフィギュアAI、新モデルに『AGIの萌芽』――CEOが自ら語る衝撃のデータ戦略」は、**記事の骨格となる事実関係については概ね正確**である。Figure AI CEOのBrett Adcockは2026年10月22日に公開した全社会議で、最新の未公開モデルについて英語で「It was the most significant moment I've ever had in robotics」「I … think it's baby AGI」と述べている。日本語にすれば、「ロボット開発に携わってきた中で最も重大な瞬間だった」「これは"幼いAGI／AGIの萌芽"だと思う」に近い。会議映像が実際に公開されたこともCEO自身の投稿で確認できる。したがって「CEOがAGIの萌芽と発言した」という部分は誤報ではない。 [1]

ただし、**「FigureがAGIに到達しかけている」という技術的結論は現時点では裏付けられていない**。問題のモデルそのものは公開されておらず、モデル規模、学習トークン／動画時間、タスク集合、失敗率、外部評価、標準化ベンチマーク、安全性試験が不明で、CEO自身による内部評価しか存在しない。Forbes英語版も「外部からは判断できない」「公開されるまで分からない」と留保している。 [2]

一方で、Figureが示している**より狭い主張、すなわち「大量の人間行動動画を事前学習すると、未知環境へのロボット一般化性能が予測可能に向上する」ことには、相当程度の実証的根拠がある**。公開済みのHelix 2.5では、30軒の未見住宅で、Index事前学習ありのモデルが完全成功率56%、同じ下流データで事前学習なしが9%だった。また、Indexデータを8倍の範囲で増やすと、保持したアクション予測損失が滑らかに改善し、最大ランの損失を事前に0.54%の誤差で予測できたとFigureは報告している。もっとも、これはFigure自身による評価であり、論文査読や第三者再現はまだない。 [3]

Figureの最大の競争優位候補はロボット本体よりも、**Index → Helix → 実機配備 → 追加データという垂直統合型データ・フライホイール**である。Indexは8月公開時点で1,600万動画、26.4万ダウンロード、週4.4万人超の投稿者、毎秒30分の動画流入だったが、10月の全社会議ではCEOが3,750万動画、126万ダウンロード、112カ国、週21万人、毎秒81分に達したと説明した。後者は会社の監査済み統計ではなくCEO説明値なので、記事では「Figureによる主張」と明記すべき数字である。 [4]

法務上は、この戦略の強さそのものが最大のリスクでもある。Figureのプライバシーポリシーは「本人または周囲の写真・動画・録音」をSensory Dataとして収集し、研究・製品開発等に利用することを明記している。しかし、家庭や職場でCreatorが撮影する動画には、投稿者以外の家族、来客、同僚、顧客、子ども、住所、画面、文書、顔、声、企業秘密などが不可避に入り得る。日本の個人情報保護法やGDPRでは、**投稿者の同意だけで動画中の第三者全員の権利問題が解決するわけではない**。特にEUでは透明性、目的限定、データ最小化、合法な処理根拠、削除・異議申立て、第三国移転、場合によってはDPIAが問題となる。 [5]

結論として、本稿の評価は、**「AGIの萌芽」を科学的事実として扱うなら現時点では誇張、しかし「汎用的な身体知能に向かうスケーリング現象を見つけた」という意味なら無視できない成果**である。投資・競争戦略上はFigureを「AGI企業」と評価するより、①世界最大級になり得る人間行動データ収集網、②事前学習優位性を示す初期証拠、③大量生産・現場配備まで含む垂直統合、④最大10万GPUの計算資源計画、の4点で評価する方が妥当である。 [6]

記事とCEO発言の検証

対象記事はForbes JAPANが2026年11月8日9時に公開したもので、原記事は米ForbesのJohn Koetsierによる11月6日の記事である。日本版が挙げる「Figure 04設計完了」「Figure 03の1,000台目」「Figure 03のコスト90%以上削減」「Index 3,750万動画」「週810万ドルのデータ支出」「20億ドル超の現金」等は、基本的に10月22日の全社会議でAdcockが自ら述べた数字を要約している。 [7]

CEO発言の原文は米Forbesが次のように記録している。

> “It was the most significant moment I’ve ever had in robotics.”
> “I … think it’s baby AGI.”

自然な日本語訳は、**「私がロボティクスに携わってきた中で、最も重大な瞬間だった」「これは“幼いAGI”、つまりAGIの萌芽だと思う」**である。日本記事の「AGIの萌芽」という訳は、“baby AGI”を直訳したものではないが、意味をやや穏当に表現した意訳として妥当である。原文ではむしろ「baby AGI」と、より強い表現を使っている。 [8]

一方、ここには重要な報道上の非対称性がある。Adcockが「baby AGI」と呼んだモデルは**Helix 2.5そのものとは限らない**。Forbesによれば、2026年9月にFigure史上最大の事前学習データとGPU数で別の新モデルを学習し、社内の“Black Box”と呼ばれる遮蔽された住宅環境でテストしたものについてCEOがこの表現を用いた。外部には短いティーザー以外、能力・評価項目・成功率が公開されていない。したがって、「Helix 2.5＝AGIの萌芽」と読み替えるのは不正確である。 [9]

記事の正確性を評価すると、次のようになる。

主張	検証結果	評価
CEOが「baby AGI」と発言	米Forbesの会議記録で確認	**確認済み**
全社会議が10月22日に公開	CEO自身のX投稿で確認	**確認済み**
Figure 04はdesign lock	会議記録で確認	**確認済み・ただし外観/仕様未公開**
Figure 03 1,000台製造	CEO発言のみ	**会社主張、独立監査なし**
Figure 03コスト90%以上低減	CEO発言のみ、絶対額なし	**会社主張、比較条件不明**
Index 3,750万動画	CEO会議資料	**会社主張**
毎秒81分の動画流入	CEO/CTO側発信	**会社主張**
「AGIに近い」	公開ベンチマークなし	**技術的には未検証**
人間動画からのスケーリング則	Helix 2.5技術公開に実験あり	**興味深いが第三者再現なし**

出典：Figure、Forbes、CEO公開会議。 [10]

したがって、この記事を「誤報」と呼ぶ根拠は薄い。しかし、**見出しの「AGIの萌芽」はCEO本人の主観的評価であって、科学的な第三者評価ではない**という但し書きが非常に重要である。

主要一次ソースは以下である。

一次ソース	内容	URL
Figure: Helix	初代Helixの構造・データ・モデル規模	`https://www.figure.ai/news/helix`
Figure: Helix 2.5	30軒ゼロショット、56%対9%、スケーリング則	`https://www.figure.ai/news/helix-2-5-zero-shot-30-home-generalization`
Figure: Index	大規模人間動画収集・処理パイプライン	`https://www.figure.ai/news/introducing-index`
Figure: Nscale提携	最大10万GPU、35億ドル初期計算契約	`https://www.figure.ai/news/figure-and-nscale-sign-strategic-partnership`
Figure: Helix 02	S0/S1/S2全身制御	`https://www.figure.ai/news/helix-02`
Figure: Project Go-Big	人間動画→ロボット直接転移	`https://www.figure.ai/news/project-go-big`
Figure Privacy Policy	動画・環境映像等の個人データ取扱い	`https://www.figure.ai/privacy-policy`
CEO公開全社会議	10月22日のX投稿／Figure YouTube	CEO投稿は公開済み、公式YouTubeにも掲載と確認

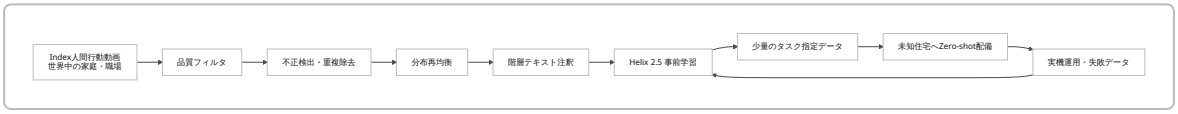
これらの一次資料は、Figureが単なる「デモ企業」ではなく、**モデル、データ、GPU、製造、実機配備を一つのスケーリング問題として扱っている**ことを明確に示している。 11

技術的妥当性と「AGIの萌芽」の検証

Figureの技術的な中心は、VLA（Vision-Language-Action）モデルをロボットの高次認識から低次制御まで結びつける階層構造である。2025年のHelixでは、7BパラメータのVLMをSystem 2として7–9Hzで動かし、80MパラメータのSystem 1が200Hzで35自由度の上半身制御を行う。学習データは約500時間の複数ロボット・複数操作者によるテレオペレーションで、言語ラベルはVLMで自動生成された。 12

2026年のHelix 02ではさらにSystem 0が追加され、1kHzで全身の安定化・接触制御を担う三層構造になった。S0は人間のモーションデータとシミュレーション強化学習を使い、S1は全身関節目標、S2は言語・場面理解を担当する。 13

Helix 2.5で最も重要な変化は、**既存VLMから始めるのではなく、Indexの人間動画だけからランダム初期化で事前学習した**とFigureが説明している点である。その基盤モデルを3タスクに適応した結果、未見30住宅で完全成功率56%を達成し、同じ下流データを使い事前学習だけ除いたモデルは9%だった。 3



FigureのIndexパイプラインはフィルタリング、不正レビュー、重複除去、リバランス、階層アノテーションの5段階で構成される。 14

主要モデル比較

モデル	規模	主な学習データ	学習法	主な評価
Figure Helix	S2 7B + S1 80M	約500時間ロボットテレオペ	end-to-end回帰、VLM→連続制御	未見物体、35-DoF、200Hz
Figure Helix 2.5	**不明**	Indexの人間動画。正確な学習時間は**不明**	ランダム初期化から人間動画事前学習＋タスク適応	未見30住宅、56% 成功 vs 9%
OpenVLA	7B	97万実ロボットデモ	VLM＋action token	29タスク、RT-2-Xより成功率+16.5pt
π0	3B VLM基盤	1万時間超ロボットデータ	flow matching＋pre/post-training	洗濯、片付け等の実機タスク
GR00T N1.7	3B	約3.2万時間実機＋0.8万時間sim	VLA、連続action chunk	DROID等複数benchmark
Open-HumanScale	不明	5万時間人間一人称動画	human pretraining→robot post-training	RoboTwin Clean2Clean 92.08%等
IronMind	不明	250〜1万時間人間動画＋ロボット	camera-space action事前学習	1万時間モデルで未知条件55%

出典：Figure、OpenVLA、Physical Intelligence、NVIDIA、Open-HumanScale、IronMind。 15

ここでFigureにとって追い風なのは、独立系研究でも**人間一人称動画のスケールがロボット性能を改善する**という結果が急速に蓄積していることだ。2026年11月4日に公開されたOpen-HumanScaleは5万時間の人間動画を用い、事前学習時間と下流ロボット成功率の間にlog-linearなスケーリングを報告した。IronMindも250〜1万時間で検証し、1万時間モデルが未知物体・未知アフォーダンスを含む6タスクで55%成功したのに対し、5,000時間以下では最高でも11.7%だった。いずれもFigureの「人間動画を大規模化すればロボット一般化が伸びる」という仮説と方向性が一致する。ただし、これらは現時点でarXivプレプリントであり、Figureの結果を直接再現したものではない。 16

Figureの関連特許も技術戦略との整合性を示す。2026年公開の「Bipedal action model for humanoid robot」は、低周波の認知モデルと高周波の反応モデルを階層化する構造を記載し、HelixのS2/S1思想と近い。別の「Humanoid robot data collection system」はデータ収集基盤を扱う。また触覚エンドエフェクタや配線、キャリブレーションなどハードウェア特許も取得している。これはIP戦略がAIだけでなく機構・センシング・データ基盤まで広いことを意味するが、**特許取得そのものは性能の証明ではない**。 17

「AGI」と呼べるか

技術的には、現段階でAGIと呼ぶには少なくとも四つ不足している。

第一に、公開評価の範囲が狭い。Figureが公開しているHelix 2.5の評価は、居間片付け・タオル折り・ベッドメイクという3種類、30住宅である。これはロボティクスとしては難しいが、人間が想定する「広範な知的仕事」をカバーしない。 3

第二に、成功率56%は「一般知能」というより、**汎化能力が急速に改善している初期段階**と見る方が合理的である。しかも56%はFigure自身のblind evaluationであり、外部研究機関による再試験ではない。 [3]

第三に、「baby AGI」と呼ばれた新モデルについて、モデル規模、データ量、失敗分布、未知タスク性能、長時間自律性、言語推論性能、安全性などが**不明**である。 [18]

第四に、ロボティクスの「一般化」とAGIは同義ではない。未知の住宅・物体へ転移できる身体スキルはembodied generalizationとして重要だが、抽象推論、知識獲得、自己訂正、長期計画、社会的理解などを含むAGI全般を意味しない。

したがって本レポートでは、**「AGIの萌芽」＝マーケティング／仮説表現としては理解可能、科学的分類としては時期尚早**と評価する。

データ戦略の実務的意味と法的リスク

Figureが賭けているのは、「ロボット自身に何百万時間もデモをさせる」のではなく、**世界中の人間が普段行う作業を動画化し、ロボットの事前学習へ移す**というモデルである。これはロボットデータの経済性を大きく変える可能性がある。

Index公開時点でFigureは、1,600万動画、108カ国、週4.4万ユーザー超、毎秒30分の動画を処理し、Creatorに累計1,500万ドルを支払ったとしていた。1,000時間あたり373タスク、1,146物体、116環境が含まれると説明している。 [19]

10月の全社会議では、その数字が3,750万動画、126万ダウンロード、112カ国、週21万人、毎秒81分に拡大したとCEOが説明した。週当たりデータ支出は推定810万ドルとされた。単純年率換算なら約4.2億ドル規模になるが、支出率が一定とは限らないため、この数字は「現在のrun-rate」であって年間予算とはみなせない。 [20]

さらにFigureはNscaleと、NVIDIA Vera Rubinプラットフォーム上で最大10万GPU、初期35億ドル、将来的に60億ドル超を意図する計算契約を締結している。初期展開は2027年後半予定である。これはFigureが「データ収集だけでなく、その全量をモデルに吸収させる計算資源」まで競争優位と考えていることを示す。 [21]

実務的には、次のようなフライホイールになる。

Creator数増加 → 動画多様性増加 → 事前学習性能上昇 → ゼロショット配備増加 → ロボット実環境データ増加 → より強いモデル → 導入価値上昇 → 資本とCreatorがさらに集まる。

これは、LLMでいう「Webデータ＋計算資源＋ユーザー利用データ」の物理世界版に近い。

しかし法的には難易度が極めて高い。Figureの現行Privacy Policyは、「あなた自身および／またはあなたの環境の写真、動画、録音」をSensory Dataとして収集し、サービス改善、テスト、研究、内部分析、製品開発などに利用するとしている。 [22]

問題は、Index動画の「データ主体」がCreatorだけではないことである。家庭動画なら家族、友人、来客、配達員、子どもなどが映り得る。職場なら同僚、顧客、社員証、モニター、帳票、機密設備、レシピ、製造工程なども入り得る。Figureが投稿者から利用許諾を取得しても、投稿者がそれら第三者の個人情報や営業秘密を合法にFigureへ提供できるとは限らない。

日本法

日本の個人情報保護委員会は、特定個人を識別できる映像は個人情報に当たり得ると明示している。また、カメラによる取得が本人に容易に認識できない場合には、認識可能にする措置が必要と説明している。 [23]

Indexのように**AI学習目的で家庭・職場を撮影する場合、防犯カメラのように「撮影目的が外観上明らか」とはいえない**。したがって、撮影者以外が写り込む場合は、利用目的の透明化と同意設計を慎重に行う必要がある。顔特徴量を抽出して識別に利用する場合には、PPCがより明示的な通知・公表を求めている。 [24]

日本から米国等へ個人データを移す場合、外国第三者提供に該当するケースでは、国名、当該国の個人情報制度、受領者の保護措置等の情報提供と本人同意が必要になる場合がある。 [25]

GDPR

EU圏ではさらに厳しい。GDPR第5条は適法性・公平性・透明性、目的限定、データ最小化等を要求し、第6条は処理の法的根拠を要求する。撮影された第三者から直接データを得ていない場合には第14条の情報提供義務も問題になり得る。大規模な映像監視・新技術・高リスク処理ではDPIAが必要となる可能性がある。 [26]

特にIndexの場合、**「Creatorの同意」をGDPR上の合法根拠として動画内の全第三者に拡張できない**。FigureまたはCreatorが別の適法根拠を立てる必要がある。顔・声・家庭内部を含む高感度なデータについては、合法性だけでなく比例性、最小化、保管期間、権利行使が問われる。

FigureのPrivacy Policyでは、個人データを目的達成に必要な期間保持し、一定の州ではアクセス・削除・訂正・ポータビリティ等を認めているが、**Index動画について具体的な保存期間、モデル学習後の「忘却」、第三者映り込みへの削除請求処理、EU向け越境移転メカニズムは公開ページ上で明確ではない**。したがってここは「不明」と評価すべきである。 [27]

EU AI Actは2026年8月2日から主要部分の適用が始まっているが、機械製品に組み込まれる高リスクAIに関する要件は段階適用で、現行の統合テキストではAnnex III型は2027年12月、Annex I製品型は2028年8月が重要な節目となる。EU Machinery Regulation 2023/1230も2027年1月20日から適用され、AIを含む安全関連機能との統合が進む。したがってFigureがEU市場へ一般販売する段階では、データ保護だけでなく安全認証・リスク管理・ログ・人間監督・サイバーセキュリティが重要になる。 [28]

推奨されるデータ・ガバナンス

Figure型モデルに必要なのは単なる「利用規約強化」ではなく、**データ生成時点からのprivacy-by-design**である。具体的には、端末上での顔・画面・文書・住所・ナンバープレート検出と自動マスキング、第三者の音声除去、位置情報の粗粒度化、企業別機密ゾーン、子ども検出時の自動拒否、映像とContributor IDの分離、短期raw-video retention、派生特徴量の別管理が望ましい。

さらに、Creatorには「自分が撮影権限を持つ場所か」「第三者が写る場合の同意を得たか」「雇用主の機密情報を含まないか」をチェックさせるだけでなく、機械検査と人間監査を組み合わせるべきである。現在のFigureのパイプラインは品質・不正・重複除去・再均衡・注釈には詳しいが、公開資料上、PII・機密情報除去の具体的工程は十分説明されていない。 [14]

倫理・安全保障リスク

Figureのモデルが強くなるほど、「誤情報」よりも**誤行動**のコストが高くなる。LLMが誤答を返すだけなら修正可能だが、フィジカルAIは食器を割る、人に衝突する、刃物や薬品を誤操作する、扉を開ける、設備を停止させるなど現実世界へ直接作用する。

主要リスクは四つに分けられる。

第一は**分布外失敗**である。Helix 2.5は未見住宅で56%完全成功という結果を示したが、裏返せば約44%は完全成功しなかった。ロングテールの家庭環境では、子ども、ペット、濡れた床、割れ物、危険物、閉塞空間などが組み合わされるため、平均成功率だけでは安全性を評価できない。 3

第二は**データバイアス**である。Indexが112カ国へ広がっても、報酬を得るためにスマートフォンを使って動画を投稿できる層が世界人口を代表するとは限らない。住居、道具、身体能力、文化、作業手順、利き手などに偏りが生じ、モデルが特定の環境を「標準」と学習する可能性がある。Figure自身はembedding clusterとtask quotaで再均衡しているが、人口統計的公平性の指標は公開していない。 14

第三は**セキュリティ**である。カメラ、音声、触覚、ネットワーク、OTA更新、自然言語命令を持つロボットは、prompt injection、視覚的adversarial input、認証回避、OTA supply-chain attack、乗っ取り等の攻撃面が広い。Agility RoboticsがDigit 5についてローカル処理、mTLS/TLS、暗号化、顧客データ分離等を明記しているのに対し、Figureの一般公開資料は同レベルの詳細なロボット・サイバーセキュリティ説明を現時点では示していない。 29

第四は**dual use**である。高い移動能力、器用な手、自然言語指示、未知環境適応を備えたヒューマノイドは、製造・介護・物流に有用である一方、侵入、破壊工作、監視、危険物取扱いなどにも転用できる。汎用性が上がるほど「特定用途を禁止する」だけでは不十分になる。

緩和策としては、モデル能力評価と安全評価を分離し、危険物、刃物、高温、階段、子ども・ペット、人との近接、緊急停止、通信断、センサー故障、攻撃入力等に対する標準化されたred-team suiteを設けるべきである。また、高レベルVLAが直接モータートルクを自由に出すのではなく、独立した安全カーネル、速度・力・接触制限、安全空間、hard stopを設ける多層設計が望ましい。

競合・市場・商業化

現在のヒューマノイド市場は、**市場シェアを通常の製品市場のように推定できる成熟度にまだ達していない**。国際ロボット連盟（IFR）は2025年の140cm超フルサイズ・ヒューマノイド販売を世界で約7,000台と推定しているが、多くはR&Dやデータ収集用途で、生産的労働への導入はまだ小規模だとしている。したがって「Figureが世界シェア○%」という精密な数字は現時点で不明であり、出荷台数・実運用時間・受注額・製造能力を代理指標として見るべきである。 30

企業	主力	2026年時点の強み	データ/AI戦略	商業化状況
Figure AI	Figure 03 / 04	垂直統合、Index、Helix	人間動画大規模pretraining	03を1,000台とCEO主張、複数州配備
Agility Robotics	Digit 5	産業安全、実運用歴	6.5万時間超実運用	3億ドル超multi-year orders

企業	主力	2026年時点の強み	データ/AI戦略	商業化状況
Apptronik	Apollo 2	Google DeepMind連携	Robot Parkで実機データ収集	Mercedes等産業連携
Tesla	Optimus	製造規模、FSD由来AI	Optimus Academy等	2026年生産ライン構築段階
1X	NEO	家庭市場への先行	家庭実利用＋world model	1万台分初期能力を予約済みと会社発表
Unitree	G1/H2	低価格、量産、中国供給網	UnifoLM、公開dataset	G1は$13.5k〜
NVIDIA	GR00T	横断プラットフォーム	open VLA＋sim＋実機データ	ハード/ソフト基盤供給者
日本：ugo	ugo Nova	国内現場運用	Data Factory＋基盤モデル	2027年量産予定
日本：ATOM	ATOM HUMANOID	5指、国産垂直統合	Physical AI Foundry	2026年資金調達、開発段階
日本：Highlanders	HL NINJA等	三菱自工連携	実環境data flywheel	国内量産を共同検討

出典：各社公式。 31

AgilityはFigureより商業運用の証拠が強い部分がある。2026年9月発表のDigit 5では、累積6.5万時間超の実運用、3億ドル超の複数年注文を公表している。Figureは汎用AI・データ面では攻めているが、顧客ROIや稼働率、MTBF、注文残高について同程度の公開値をまだ示していない。 29

Figureの最大の財務的優位は資本アクセスである。2025年9月のSeries Cでは10億ドル超を調達し、post-money評価額390億ドルとなった。2026年9月にはさらにNscaleが非公開額の戦略投資を行い、35億ドル規模の初期compute commitmentを伴う契約を結んでいる。 32

一方、評価額390億ドルは技術成功を意味しない。Indexの週支出810万ドルを仮に維持し、さらにGPU契約、製造設備、人員、サービス網へ投資するなら、Figureの戦略は極端に資本集約的である。**スケーリング則が本当に続けば強い参入障壁になるが、逓減が早く来れば巨大な固定費になる**。これがFigure投資仮説の中心的な非対称リスクである。

市場全体については予測幅が非常に大きい。IFRは2025年販売約7,000台というまだ小さな実市場を示す一方、Morgan Stanleyは2050年に約10億台、関連市場5兆ドル超という長期シナリオを示す。Goldman Sachsは2024年時点で2035年380億ドルを予測しており、2026年には一部報道でさらに上方修正されたと伝えられる。予測間の差が大きいこと自体、技術成熟度・価格・規制・ROIの不確実性を示している。 33

日本勢については、現時点でFigureのような世界規模のデータ収集網を持つ企業は確認できない。一方、ugoは2027年量産予定のugo Nova、ATOMはフィジカルAIファウンドリ、Highlandersは三菱自動車との量産協業を進めている。経産省GENIACでもロボット基盤モデル事業が動いており、日本は**製造現場・精密機械・安全運用データを軸に差別化できる余地**がある。 34

結論と短中長期の見通し

本記事の中心命題である「AGIの萌芽」は、三段階に分けて評価する必要がある。

科学的主張としては、現時点では妥当とは言えない。 「baby AGI」と呼ばれたモデルは非公開で、外部評価、標準ベンチマーク、モデルカード、学習規模、失敗率がない。したがってAGIというラベルを証明する証拠はない。[18]

ロボット学習の方向性としては、かなり重要である。 Helix 2.5の56%対9%というpretraining ablation、8倍データでの滑らかなloss scaling、外部研究での5万時間級人間動画スケーリングは、「人間動画を大量事前学習すれば未知環境へのロボット汎化が伸びる」という仮説を支持する。これは2023〜2025年のVLAが「Web知識＋ロボットデータ」だった段階から、「Web規模の物理行動データ＋ロボット」という次段階へ移りつつあることを示す。[35]

競争戦略としては非常に攻撃的かつ合理性がある。 Figureはデータ、GPU、ハードウェア、製造、実世界配備を一体でスケールさせようとしている。LLM競争でデータと計算資源が障壁になったのと同じ構造を物理AIで再現しようとしている、と解釈できる。[36]

短期、すなわち今後12〜18カ月で最も重要なのは、Figureが「baby AGI」モデルをどこまで公開するかである。注目すべき指標は、未知タスク数、未知環境数、完全成功率、人間介入率、連続稼働時間、失敗からの回復率、1タスク追加に必要なロボットデータ量、モデル・データ・compute scaling curveである。Figure 04の仕様や生産性よりも、**Indexを増やしたときHelixの実仕事成功率が予測可能に上がり続けるか**が本質的である。

中期、2〜5年では、勝敗は「汎用モデルの賢さ」だけでなく、稼働率・修理費・エネルギー・安全認証・保険・現場統合費を含む**1時間当たりの有効労働コスト**で決まる可能性が高い。Agilityのように産業安全と実稼働時間を積む企業、Teslaのように大量生産基盤を持つ企業、中国勢のように低価格供給網を持つ企業は、Figureにとってそれぞれ異なる脅威である。[37]

長期、5年以上では、人間動画からの身体知能転移が継続してスケールし、ロボット自身の実世界データがさらに戻るなら、現在の「タスクごとのロボット開発」から「巨大な物理基盤モデルを一度育て、多数の仕事へ展開する」という構造に変わる可能性がある。ただし、法規制と社会受容が追いつかなければ、家庭市場より先に工場・物流・危険作業で成熟する可能性が高い。IFR、Morgan Stanley、Goldman Sachsのいずれも、産業用途が家庭用途に先行するとの方向性では概ね一致している。[33]

依頼者にとっての推奨アクションは、Figureを「AGIか否か」で二分せず、**五つの証拠を継続監視すること**である。すなわち、①Helix次世代モデルの外部ベンチマーク、②Indexデータ量に対する成功率のスケーリング、③顧客現場での無介入稼働時間とROI、④Indexの第三者プライバシー・越境移転・削除対応、⑤Figure 04の実製造原価と保守性である。この五点のうち前三つが同時に改善すれば、「AGI」という言葉を使わなくてもFigureの技術的・経済的優位は十分に重大になる。

現時点の総合判定は、**「AGIの萌芽」：技術的事実としては未証明、マーケティング表現としては強すぎる。ただし、汎用身体知能へ向かう“スケーリングの萌芽”という表現なら、公開データと外部研究の双方から相当程度支持できる**、である。[35]

---

[1] [8] [10] [20] Figure CEO Brett Adcock: Every Major Announcement From Company Meeting
https://tollbit.forbes.com/sites/johnkoetsier/2026/11/06/figure-ceo-brett-adcock-every-major-announcement-from-company-meeting/

2 9 18 Figure CEO Brett Adcock: Every Major Announcement From Company Meeting
https://tollbit.forbes.com/sites/johnkoetsier/2026/11/06/figure-ceo-brett-adcock-every-major-announcement-from-company-meeting/?utm_source=chatgpt.com

3 6 35 Helix 2.5: Zero-Shot 30-Home Generalization
https://www.figure.ai/news/helix-2-5-zero-shot-30-home-generalization

4 14 19 Introducing Index: Building The World’s Largest and Most Diverse Physical Dataset
https://www.figure.ai/news/introducing-index?trk=public_post_comment-text&utm_source=chatgpt.com

5 22 27 Privacy Policy | Figure
https://www.figure.ai/privacy-policy

7 人型ロボのフィギュアAI、新モデルに「AGIの萌芽」――CEOが自ら語る衝撃のデータ戦略 | Forbes JAPAN 公式サイト（フォーブス ジャパン）
https://forbesjapan.com/articles/detail/107890?e=61472&n=1&utm_source=chatgpt.com

11 21 36 Figure and Nscale Sign Strategic Partnership For Up to 100,000 GPUs on the NVIDIA Vera Rubin Platform
https://www.figure.ai/news/figure-and-nscale-sign-strategic-partnership?utm_source=chatgpt.com

12 15 Helix: A Vision-Language-Action Model for Generalist Humanoid Control
https://www.figure.ai/news/helix?_bhlid=b8b2b559cbd15863672a12df457ee8a00d3dd03c&utm_source=chatgpt.com

13 Introducing Helix 02: Full-Body Autonomy
https://www.figure.ai/news/helix-02?_bhlid=76cd080326fdf35021ae21629fc01f295bf48fc2&utm_source=chatgpt.com

16 Open-HumanScale: An Open Recipe for Scaling Human and Robot Experience for Embodied Foundation Models
https://arxiv.org/abs/2611.06817?utm_source=chatgpt.com

17 Bipedal action model for humanoid robot
https://patents.google.com/patent/US20260124750A1/en?utm_source=chatgpt.com

23 防犯カメラやビデオカメラなどで記録された映像情報は、特定の個人を識別することができる映像であれば、個人情報データベース等に該当しますか。 ｜個人情報保護委員会
https://www.ppc.go.jp/all_faq_index/faq1-q1-41/?utm_source=chatgpt.com

24 店舗や、駅・空港等に設置し、カメラにより画像を取得し、そこから顔特徴データを抽出して、これを防犯目的で利用する（顔識別機能付きカメラシステムを利用する。）ことを考えています。個人情報保護法との関係で、従来型防犯カメラを利用する場合の留意点（Ｑ１－13）に加えて、どのような点に留意する必要がありますか。 ｜個人情報保護委員会
https://www.ppc.go.jp/all_faq_index/faq1-q1-14_/?utm_source=chatgpt.com

25 個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン（外国にある第三者への提供編） ｜個人情報保護委員会
https://www.ppc.go.jp/personalinfo/legal/guidelines_offshore/?utm_source=chatgpt.com

26 Regulation - 2016/679 - EN - gdpr - EUR-Lex
https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?qid=1526560528451&uri=CELEX%3A32016R0679&utm_source=chatgpt.com

28 Rules for trustworthy artificial intelligence in the EU
https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/HTML/?uri=LEGISSUM%3A4762484&utm_source=chatgpt.com

29 31 37 Agility Unveils Digit 5 Humanoid Robot Built for Cooperatively Safe Work at Scale | Agility
https://www.agilityrobotics.com/content/agility-unveils-digit-5-humanoid-robot-built-for-cooperatively-safe-work-at-scale?utm_source=chatgpt.com

30 33 Global Sales of Professional Service Robots Surge 24% - International Federation of Robotics
https://ifr.org/news/global-sales-of-professional-service-robots-surge-24-percent/1st-?utm_source=chatgpt.com

32 Figure Exceeds $1B in Series C Funding at $39B Post-Money Valuation
https://www.figure.ai/news/series-c?utm_source=chatgpt.com

34 お知らせ｜フィジカルAI時代に向けた国産セミヒューマノイド「ugo Nova」を発表 - ugo
https://ugo.plus/information/2026/09/16/ugo-nova/?utm_source=chatgpt.com